

開講科目名／Course	老年看護援助論Ⅰ	
ターム・学期／Term・Semester	2025年度／Academic Year 2 学期／Second	
開講区分／semester offered	2 学期／Second	
単位数／Credits	1.0	
学年／Year	2	
主担当教員／Main Instructor	小野 美喜	
担当教員名／Instructor	小野 美喜、堀 裕子、中釜 英里佳	
必修・選択 ／compulsory subject	必修	
講義形態 ／Class Type	講義	
授業回数	8	
科目の目的と概要	加齢に伴う様々な健康問題をもつ高齢者の生活に及ぼす影響や健康的な日常生活を支えるための看護援助を学ぶ。これらの学習を通して、その人らしさを尊重して、最期まで高齢者本人とその家族のもつ力を最大限に活かすことができる看護を考察する。	
到達目標	1. 加齢変化に伴う高齢者に必要なアセスメント視点について述べるができる。 2. 高齢者の日常生活の援助方法について説明できる。 3. 高齢者の健康を維持・向上するための看護援助について説明できる。 4. 人生の最終段階にある高齢者と家族を尊重した看護援助について説明できる。	
DPとの対応	1.心豊かな人間性・倫理観、2.科学的思考力、3.看護の基盤となる専門知識・技能、4.連携協働・リーダーシップ、5.地域性・国際性、6.探求心と創造力	
授業計画	01. 高齢者のアセスメント・総合的機能評価 02. 高齢者の基本動作と運動・転倒予防 03. 高齢者の食生活を整える：摂食嚥下・経管栄養 04. 高齢者の排泄を整える：排泄コントロール 05. 高齢者とコミュニケーション 06. 高齢者の清潔と睡眠・休息を整える：スキンケア 07. 高齢者とエンドオブライフケア 08. 高齢者と家族への緩和ケア	
その他の授業の工夫	適宜小テストで基本的知識を確認し知識習得を深める。 全体を通して高齢者の生活援助については事例検討を通して、高齢者に安全で望ましい援助方法を考えるアクティブラーニングを用いる。	
時間外学修	各授業に該当する内容をテキストにて予習する（8h） 授業内で指示した課題をレポートにまとめる（8h） 授業資料や小テストを復習する（6h）	
評価方法と評価割合	筆記試験（70%） レポート課題（20%） グループワーク参加の姿勢（10%）	
テキスト	ナーシング・グラフィカ 老年看護学① 高齢者の健康と障害（メディカ出版） ナーシング・グラフィカ 老年看護学② 高齢者看護の実践（メディカ出版）	
参考書		
履修する上で必要な要件	老年看護学概論を修得済みであること。本科目では、学生が「疾患・病態生理」、「検査・治療」を理解しているという前提で講義を実施する。	
その他	講義毎にハンドアウト資料を準備。	
教員の実務経験	有・無	有
	内容	小野美喜：病院の看護師 堀裕子：病院の看護師 中釜英里佳：病院の看護師
教員以外で指導に関わる者の実務経験	有・無	無
	内容	
実務経験をいかした教育内容	加齢変化や疾病を抱えながら生活する高齢者への実際を指導する。	